

実践的指導力の向上を図る参加体験型の 研修手法とその効果に関する研究

これからの教員には、教育活動全体を通じて、子ども一人一人に思考力・判断力・表現力等を育成する実践的指導力を高めることが求められており、特に、授業改善につながる組織的な校内研究の推進が大切です。

このため、道研では、学校全体で研究内容を共有し、主体的に参加できる校内研究の工夫改善を図ることができるよう、本プロジェクト研究に取り組み、今回、本リーフレットに、その研究内容の概要をまとめました。今後、各学校の課題を踏まえた校内研修等で効果的に活用していただくことを期待しています。

研究の背景

■本道における校内研修推進上の主な課題

- 校内研究の成果が日常の授業改善に十分に生かされていない。
- 研究の計画の立案に多くの時間が費やされている。
- 全教職員で研究の方向性等の共通理解が十分に図れていない。
- 研究協議において活発な話し合いが十分になされていない。

■解決の方向性

- 参加体験型の研修を取り入れ、研究内容の共通理解や授業研究の活性化を図り、組織的かつ効率的な取組に改善する。

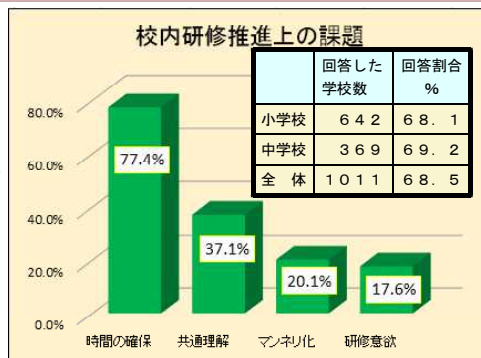
研究の実際

第一ステップ

H25

■研究内容等

- 本道の校内研修の推進に関わる実態把握及び課題の分析
- 道外の教育センターや先進校の視察による情報収集



■研究から見た解決策

- ・限られた時間内で効果的な校内研修に取り組むこと。
- ・全ての教職員がお互いに意見等を出し合い、学校全体で研究の方向性等の共有化を図ること。
- ・「直ちに授業改善につながる」など、意欲を喚起するような校内研修に取り組むこと。

第二ステップ

H26

■研究内容等

- 「研修プラン」の開発
 - ・研修にかかる時間が効率的になるよう90分で行うパッケージ研修の企画
 - ・どの教員も主体的に参加できるよう参加体験型の研修の位置付け
 - ・日常の授業改善につながるよう個々の省察の位置付け
- 「研修プラン」の実践的な検証
 - ・共同研究校における実践と教員の意識の変容の検証
 - ・共同研究校における実践を踏まえたプランの改善



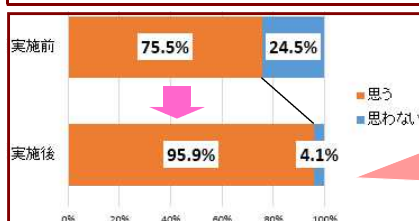
■計画的・即時的に対応できる「研修プラン」へ

- ・校内研究を進める際の時系列に沿った「テーマ等の決定段階」「研究内容の決定段階」「実践段階」「まとめの段階」の4つの「研修プラン」の提案
- ・校内研究の土台となる「協働意識の高揚」「組織的な運営」の2つの「研修プラン」の提案

研究の主な成果

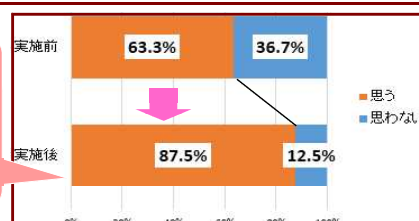
■アンケート調査による教員の意識の変容＜一部抜粋＞

- ・授業研究の研究協議で、日常の授業改善のポイントが明確になっていると思うか。



教員の参画意識の高揚が、図られました。

- ・授業研究の研究協議で、自分の意見が取り入れられていると思うか。



成果の具体

共同研究校の実践
p. 2、3 へ

研修プラン一覧
p. 4 へ

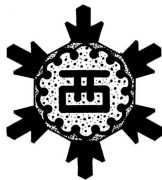
共同研究校による「研修プラン」の取組（一部掲載）



岩内町立岩内西小学校

校長：下口 学 教頭：吉田 貴

児童数：268 学級数：16 教職員数：41



課題

- 2校が統合し、児童の実態把握等が十分に行われないまま、一方の学校の校内研究が継続されており、全教員で共通理解が図られていない。
- 会議や研究協議等での発言に偏りがある。

8月 研修プラン3 → 11月 研修プラン3 → 11月 研修プラン3 → 1月 研修プラン4 → 2月 研修プラン1

実践

【平成26年11月13日実施】

- ・これまで2回行った「研修プラン3」の経験を生かし、各グループにファシリテーターを置き、拡大指導案を活用した研究授業の振り返りを行った。
- ・研究授業から明らかになった成果と課題を踏まえ、今後の授業改善に向け、学校全体で取り組むことを協議した。
- ・「課題の明確化」と「課題解決の見通しをもたせる」の2点をキーワードとした授業改善に取り組むことを確認した。



成果

- 校内研究においては全教員で児童の実態を把握し、育成したい児童像を明確にした上で、研究内容を決定する必要があることについて理解が深まった。
- 教員間のコミュニケーションが活発になり、組織的に校内研究を推進していこうとする機運が高まった。



えりも町立えりも小学校

校長：金澤 覚 教頭：加我 盛生

児童数：182 学級数：9 教職員数：21



課題

- 研究仮説や研究内容は決定しているものの、検証の手立てが明確ではないため、見通しをもった研究となっていない。
- 研究内容が具体化、焦点化されていないことから、共通理解が図られていない。

10月 研修プラン3 → 12月 研修プラン4 → 1月 研修プラン5

実践

【平成27年1月22日実施】

- ・授業改善に向けた取組について、各教員が抱えている悩みや課題を交流し、KJ法で課題を整理した。
- ・多くの教員が挙げた課題について、マンドラで解決策について協議した。
- ・授業改善の具体的な方策として、「教師による説明と生徒に考えさせる場面を明確にした授業づくり」に取り組むことを確認した。



成果

- 校内研究の成果と課題を踏まえ、次に取り組むことを具体化し、日常の授業で全教員が実践することの必要性について共通理解が図られた。
- 自身が抱えている授業改善に係る課題と校内研究を結び付けて捉える教員が増えるなど、校内研究に対する協働意識が高まった。



岩内町立岩内第一中学校

校長：東 堂 亮 之 教頭：加藤 秀典

生徒数：163 学級数：7 教職員数：21



課題

- 学校独自のマトリクスを活用した参加体験型の校内研究を実施しているものの、明確になった課題に対する具体的な解決策を協議するまでに至っていない。
- 教科の専門性を理由に、協議が深まらず組織的な取組となっていない。

8月 研修プラン3 → 9月 研修プラン3 → 10月 研修プラン3 → 11月 研修プラン4 → 1月 研修プラン6 → 2月 研修プラン1

実践

【平成27年1月30日実施】

- ・これまで取り組んできた校内研究の課題について、ロジックツリーを用いて、課題の原因を明確にするとともに、年度末までに取り組む課題について、マトリクス法で焦点化した。
- ・焦点化した課題の解決策を5W1Hで具体化した。
- ・「グループでの話し合いのルールの明確化」「各教員が実践した言語活動の充実を図った授業の略案を交流するミニ研修の実施」に年度内に取り組むことを確認した。



成果

- 授業改善の手立ての検証を通して、成果と課題を明確にするとともに、課題の原因を探り改善策を協議する必要性について共通理解が図られた。
- 目指す生徒像の実現に向け、どの教科においても共通して取り組む内容が明確になり、教科の壁を越えた取組が組織的に学校全体で推進されるようになった。



えりも町立えりも中学校

校長：松田 拓美 教頭：石山 雅之

生徒数：120 学級数：5 教職員数：16



課題

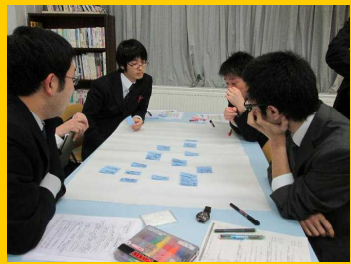
- 教科の違いから、組織的な校内研究は難しいと考えている教員が多く、全教員による取組となっていない。
- 会議や研究協議等での発言に偏りがある。

8月 研修プラン1 → 11月 研修プラン3 → 1月 研修プラン4 → 2月 研修プラン2

実践

【平成27年2月26日実施】

- ・次年度以降の校内研究について、研究構造図のモデルを用いて、目指す生徒像、研究主題、研究仮説、研究内容の検討を行った。
- ・目指す生徒像の実現に向けた手立てをKJ法で整理しながら研究仮説を設定した。
- ・「ノート指導の充実」と「生徒主体の学習活動の工夫」の2点を中心に授業改善を進めることを確認した。



成果

- 校内研究は内容を焦点化して取り組むことや、検証方法を見通して研究仮説を設定することの大切さについて共通理解が図られた。
- 全ての教員が校内研究を自分事として捉え、積極的に考えを発言するとともに、決定事項について実践していこうとする意識が高まった。

「実践的指導力の向上を図る参加体験型の研修手法とその効果に関する研究」における「研修プラン」一覧

	テーマ等の決定段階 研修プラン1 目指す姿の明確化	研究内容の決定段階 研修プラン2 取組内容の具体化	実践段階 研修プラン3 授業研究の活性化	まとめの段階 研修プラン4 成果と課題の明確化	校内研究推進の土台 研修プラン5 協働意識の高揚	校内研究推進の土台 研修プラン6 組織的な運営
実施前の学校の状況	■学校全体で取り組む研究内容について決定した事項を全教員で共通認識できていない状況がうかがえる。	■研究仮説を設定していないことから、子どもの変容から取組を検証する計画的な研究となっていない状況がうかがえる。	■研究協議においては一部の教員による発言に偏ったり、授業の感想や学級経営に係る意見にとどまる状況がうかがえる。	■研究の成果と課題については、教員アンケートの集計にとどまり、結果について全体で協議していない状況がうかがえる。	■各教員が抱く困り感などを日常的に交流しておらず、協働した研究となっていない状況がうかがえる。	■研究内容が十分共通理解されず、校内研究の推進上の課題の原因や解決策について協議していない状況がうかがえる。
使用する主な研修手法	・KJ法 ・マトリクス法	・KJ法 ・5W1H	・指導案拡大シート ・マトリクス法	・概念化シート ・ブレインストーミング	・KJ法 ・マンダラ*	・アイスブレイク ・ロジックツリー
展開の概要	①各種調査等の結果から明らかになった子どもの実態の確認 ②子どもの実態に基づく学校課題の焦点化 ③解決に向けて着手すべき課題の順序付け ④校内研究で目指す方向性や子ども像の共通理解 ⑤研修の振り返り	①学校課題の解決に向けた取組内容の交流 ②取組内容の分類・整理 ③研究仮説と研究内容の協議 ④研究仮説と研究内容の確認 ⑤研修の振り返り	①協議の視点の確認 ②拡大指導案を活用した「よい点」と「改善」点の協議 ③協議内容の発表による成果と課題の確認 ④課題解決策の協議 ⑤今後の具体的な取組内容の確認 ⑥研修の振り返り	①これまでの授業研究における成果と課題の確認 ②校内研究の成果と課題の交流・整理 ③次年度の方向性や改善策の明確化 ④研修の振り返り	①日常の授業実践における悩みや課題の共有 ②課題解決策の協議 ③課題解決策の確認と順序付け ④校内研究の方向性の確認 ⑤研修の振り返り ※3×3のマトリクスを使って課題に対する解決策を焦点化する手法	①校内研究の研究主題や研究仮説、研究内容の確認 ②具体的な取組内容の確認 ③今後のスケジュールの確認 ④研修の振り返り
研修後の教員個々の省察	・学年や教科等における具体的な目指す子どもの姿の共有化	・研究内容を踏まえた授業改善に向けた取組内容の明確化	・今後の授業改善に向けた取組の焦点化	・これまでの授業改善の取組の振り返り	・校内研究に取り組む意欲と意識の高揚	・組織的な校内研究への参画
実施後の教員の感想	■全教員で話し合っただけという実感がもてたので頑張りたい。	■視点を明確にした研究の進め方が分かり校内研究に対する参画意識が高まった。	■授業研究が自分の授業改善につながる実感をもつことができ有意義であった。	■成果と課題を概念化シートで見える化したので今後の方向性が明らかになった。	■指導上の困り感を研究内容に反映することで組織的な研究が一層進むと感じた。	■取組の課題とその原因が明確になり、解決の見通しをもつことができた。

「研修プラン」の詳しい内容は次のアドレスに掲載していますので、是非御覧ください。

<http://www.doken.hokkaido-c.ed.jp/research/project/>

なお、「研修プラン」は各学校の状況に応じて活用できるよう、加工可能なデータで掲載しています。